報告とお礼

12.22「高浜原発３号機の再稼働に抗議する！高浜緊急集会」を、降雪、寒冷予報も跳ね返して32人で闘いました

関電が「使用済み核燃料の中間貯蔵地を2023年末までに福井県外に探す。探せなければ、老朽原発の運転を停止する」とした福井県との約束の期限まで残り２日（12月29日現在）です。何としても、関電と福井県にこの約束の履行を迫り、老朽原発の停止を実現しなければなりません。

さて、岸田政権は支持率最低を更新中ですが、それでも数を頼んで「原発依存社会」に暴走し、関連法案を、まともな審議もせず、５月末に改悪しました。また、先のＣＯＰ28（全参加国150以上）で示された「気候変動への危機感」に乗じて、わずか22か国と語らって、50年までに原発容量を３倍に増やす宣言を発しています。このことは、日本では、既存と建設中の原発の全てを稼働することを意味します。岸田政権はこれを40年までに達成しようとして、来年改定予定のエネルギー基本計画に盛り込もうとしています。福島原発事故の教訓を蹂躙した、「原発依存社会」への更なる暴走です。

一方、岸田政権の意をくむ関電は、運転開始後47年になろうとする老朽原発・美浜３号機を2021来稼働させ、本年（2023年）は、49年超えで最古の原発・高浜１号機、48年超えの老朽高浜２号機の再稼働を強行しました。

さらに、**関電は、定期点検中であった高浜原発３号機を、12月22日に再稼働させました。高浜３号機では、約320℃、約160気圧の高温、高圧水が流れ、完全破断すれば、原子炉空焚きにもつながる蒸気発生器伝熱管の損傷が頻発し、電源ケーブル電線管の防火対策もなおざりにされています。また、危険が指摘されて久しいプルサーマル運転を行い、来年（2024年）1月で運転開始後39年になるため、老朽化も危惧されています。なお、高浜３号機では、今回の定期検査でも伝熱管損傷が発覚し、再稼働が遅延しています。**

今、電気は足りています。電力がひっ迫するのは、１年のうちの数日です。それも１日の中の数時間です。このような一時的な電力ひっ迫は、節電によって乗り切れます。したがって、放射線被ばくを強い、子々孫々にまで負の遺産・使用済み核燃料を残す原発を稼働させる必要は全くありません。

12.22「高浜原発３号機の再稼働に抗議する！」高浜緊急行動では、とくに以下の２点を訴えました

・トラブル続きの高浜原発３号機をうごかすな！
・関電は「使用済み核燃料の中間貯蔵候補地を2023年末までに福井県外に探す。期限が守られなければ老朽原発を停止する」とした福井県知事との約束を厳守し、老朽原発を停止せよ！

12月22日の高浜は、気象予報に反し、行動参加者に味方するかのように、温かい快晴の天気となりました。（２、３日後の天気すら予測できないのが科学の現状です。そんな現在科学の下で「万が一にも過酷事故を起こしてはならない原発」を動かすことは、人の命と尊厳をないがしろにする犯罪です。）

12月22日、関西各地、福井県内からの参加者32人は、12時に高浜原発北ゲートから北方300ｍの展望所に結集し、デモ行進で、北ゲートに向かい、北ゲート前で14時30分まで抗議行動を展開しました。抗議行動では、参加者全員が「原発依存社会」に向かって暴走する岸田政権と関電への思いのたけを述べられました。（集会の様子は「老朽原発うごかすな！ニュース」116号に紹介されています。）

１時からは、関電への申し入れを行いました（裏面をご覧ください）。

抗議行動中、右翼の街宣車２台と随行車１台が、大音量で集会前を繰り返し通り過ぎ、集会妨害を図りましたが、その度に彼らの音量に倍する元気のよいシュプレヒコールで対抗し、彼らを完全に圧倒しました。

最後に、2024年を「老朽原発廃炉を突破口に、原発全廃を実現する」年とすることを誓い合って。帰路につきました。

12.22行動に、ご支援、ご参加を頂きました皆さん、ありがとうございました。

2023年12月29日

老朽原発うごかすな！ 実行委員会
（連絡先；木原壯林：090-1965-7102）

高浜3号機再稼働で市民団体が抗議デモ

市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は22日、関西電力高浜原発3号機（高浜町）の再稼働を受け、原発周辺で抗議活動を展開した。

県内外から32人が参加し、高浜原発を望む音海展望台からゲート前まで、300㍍をデモ行進した。参加者はゲート前で横断幕などを掲げ「高浜原発は廃炉しろ」「高浜3号機再稼働反対」などとシュプレヒコールを上げた。参加者代表が高浜原発3、4号機の稼働断念と即時廃炉、自然エネルギー発電の開発などを求める申し入れ書を関電側に手渡した。（本田英寛）

高浜原発前でシュプレヒコールを上げる参加者ら＝高浜町で

2023年12月23日　日刊県民福井朝刊

市民団体が抗議 高浜原発3号機再稼働

市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は22日、関西電力高浜原発3号機（高浜町）の再稼働を受け、原発周辺で抗議活動を展開した。

県内外から32人が参加し、高浜原発を望む音海展望台からゲート前まで300㍍をデモ行進した。参加者はゲート前で横断幕などを掲げ「高浜原発は廃炉しろ」「高浜3号機再稼働反対」などとシュプレヒコールを上げた。参加者代表が高浜原発3、4号機の稼働断念と即時廃炉、自然エネルギー発電の開発などを求める申し入れ書を関電側に手渡した。（本田英寛）

関電社員㊧に申し入れ書を手渡す参加者代表＝高浜町の高浜原発で

2023年12月23日　中日新聞朝刊

展望所から高浜原発北ゲートまでデモ行進

高浜原発北ゲート前で怒りのシュプレヒコール

高浜原発北ゲート前で参加者全員が抗議のアピール

中嶌哲演さんのスピーチ

「危険度急増の老朽原発うごかすな！」
「使用済み燃料の発生源・原発の全廃を！」
「核燃料、化石燃料を使わず、自然エネルギーのみでの発電を！」

関西電力に申し入れ

関西電力は、12 月 22 日、定期点検中であった高浜原発 3 号機を再稼働させました。高浜 3 号機は、トラブル続きで、2025 年には運転開始後 40 年になる老朽化の進んだ原発です。また、危険度の高いプルサーマル運転を行っています。「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、22 日、高浜原発前で高浜緊急行動を行い、高浜原発 3 号機の再稼働に抗議し、関西電力に以下の申し入れを行いました。なお、下記のうち、【　】内は申し入れ書には記述していません。

申し入れ

関西電力株式会社：取締役会長 榊原 定征 様、取締役社長 森望 様、原子力事業本部長 水田　仁 様、高浜発電所長 木島 和夫 様

【 原発重大事故は生存・生活の基盤を根底から奪い去ります 】

原発は、現在科学技術で制御できる装置でないことを、発生後12年半を経た福島原発事故が、大きな犠牲の上に教えています。福島原発事故の被害者の多くは、今でも苦難の生活を強いられています。避難指示の解除が進められていますが、高放射線地域へ帰還を望む避難者はほとんどいません。一方、事故を起こした原発の処分の見通しは全くたっていません。放射能を含む汚染水はたまり続け、太平洋に垂れ流されています。このように、原発が重大事故を起こせば、現在および未来に生きる人々の生存・生活の基盤を根底から奪い去る可能性があります。

【 老朽原発の稼働は無謀：「原発依存社会への暴走」は許されません 】

それでも、岸田政権は、炭酸ガス削減やエネルギーひっ迫を口実にして「原発依存社会への暴走」を続け、これに迎合する貴関西電力（以後、関電と略）は、運転開始後47年を超えた老朽原発・美浜3号機を一昨年来稼働させ、本年は、49年超えで最古の原発・高浜1号機、48年を超えた老朽原発・高浜2号機を再稼働させました。

さらに、関電は本日（12月22日）、定期点検中であった高浜原発3号機の再稼働を行おうとしています。高浜3号機では、約320℃、約160気圧の高温、高圧水が流れ、完全破断すれば、原子炉空焚きにもつながる蒸気発生器伝熱管の損傷が頻発し、電源ケーブル電線管の防火対策も完全ではありません。また、危険が指摘されて久しいプルサーマル運転を行い、来年1月で運転開始後39年になるため、老朽化も危惧されています。

地震、火山噴火、津波の多発する日本での、世界的に見ても老朽な原発の運転は、無謀で、福島原発事故の犠牲と教訓を蹂躙するものです。

【 関電は、トラブル、不祥事、約束違反を頻発させています 】

ところで、原発の再稼働を進める関電は、伝熱管損傷や電線管の防火対策不備だけでなく、制御棒を吊り下げる装置の電源ケーブルの接触不良、特定重大事故等対処施設における計装設備部品の未装着、加圧器圧力逃し弁出口の温度異常など、トラブル、事故を続発させています。

さらに、関電は、元高浜町助役からの役員の金品受領、経営悪化の責任をとって減額していた役員報酬の退職後の不正還流、原発の安全対策工事で出た土砂の処分の元高浜町助役や町議の関連会社への高額発注、土地や倉庫の借料に関する高額対価の支払い、電力販売での大手電力会社間カルテル締結の主導など、不祥事を繰り返しています。

関電の繰り返す約束違反も許されるものではありません。関電は、何度も「使用済み核燃料の中間貯蔵候補地を福井県外に探す」と約束しながら、それを全て反故にしています。関電は、福井県知事の原発再稼働への同意を取り付けるために、何の成算も無く「空約束」を繰り返してきたのです。2021 年 2 月にも、候補地提示期限を「2023 年末まで」と約束し、「期限が守られなければ老朽原発を停止する」としていますが、12 月下旬の現在でも候補地を見出すことはできていません。関電は、苦肉の策として、使用済み核燃料の一部を、MOX 燃料再処理実証試験に供するために、フランスに持ち出す計画を示し、「県外に搬出されるという意味で、中間貯蔵と同等の意義がある」としています。しかし、搬出量は、関電の原発で保管する使用済み核燃料のわずか 5%程度に過ぎず、詭弁です。さらに、関電は中国電力と共同で、8 月、唐突に、中間貯蔵地建設のための調査を上関町に申し入れました。原発建設に反対し、美しい、希少な生態系を守る闘いを進める住民の心情を逆なでするものです。

現在科学技術の手におえない原発を、無理矢理稼働させようとするから、人々を欺かなければならなくなり、金品にまつわる不祥事や約束違反が発生するのです。

【 使用済み核燃料の貯蔵を引き受ける所はありません　→ 関電は約束通り老朽原発を停止して下さい 】

一方、中間貯蔵に関する対応について、福井県から説明を求められた関電は、10 月 10 日、青森県の再処理工場の活用、中間貯蔵施設の確保を盛り込んだ工程表を示し、搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討するとしています。関電が示した工程表は、再処理工場の稼働を前提に策定していますが、稼働の見通しはなく、「絵に描いた餅」です。したがって、一旦、乾式貯蔵を始めれば、永久貯蔵への道を開くことになりかねません。それでも、福井県知事はわずか 3 日後の 13 日、これを容認しました。「原発の運転継続ありき」の出来レースです。

なお、原発運転で発生する使用済み核燃料の放射線量や発熱量は、取り出し直後には膨大ですから、一定期間、燃料プールで水冷保管しなければなりません。燃料プールが満杯になれば、原発は運転できなくなります。そのため、政府や関電は、発熱量が減少した使用済み核燃料を、プールから取り出して乾式貯蔵に回して、プールに空きを作り、原発運転の継続を可能にしようとしています。

【 新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります 】

その燃料プールは極めて脆弱です。とくに、新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります。このことは、福島原発事故後、4 号機のプールが冷却水を失って、火災に至り、放射性物質が放出されて、首都圏まで壊滅的被害をこうむる危機にあったため、被曝覚悟で燃料を取り出し、6 号機のプールに移して、危機を回避した事実からも明らかです。

【 一刻も早く核エネルギー、化石燃料による発電と決別し、自然エネルギーによる発電に全面切り替えして下さい 】

【岸田政権や関電がいかに願望しようとも、いかに法律を変えようとも、政治的な判断や原子力ムラの都合で、科学・技術が急に進歩することはありません。原発の安全性や使用済み核燃料、放射性廃棄物の処理処分技術が急に向上することはありません。行き場のない使用済み核燃料を発生させる原発、トラブル続きで、過酷事故を起こしかねない原発は、一刻も早く全廃すべきです。】

そもそも、岸田政権や関電の「原発依存社会」への暴走は、福島原発事故以降の政権や電力会社が、事故の教訓を生かさず、原発維持にこだわり、自然エネルギーへの全面切り替えを怠った結末です。日本は、太陽光にも、水にも、風にも、地熱にも恵まれています。先見の明がある政権や電力会社であったなら、原発に費やされた膨大な税金や電気料金を、自然エネルギーを利用する電源、大容量の蓄電法、省エネ機器の開発と普及に回し、今頃、核燃料、化石燃料など必要のない社会を実現し、世界をリードしていたでしょう。

今、電気は足りています。電力がひっ迫するのは、1 年のうちの数日です。それも 1 日の中の数時間です。このような一時的な電力ひっ迫は、節電によって乗り切れます。したがって、放射線被ばくを強い、子々孫々にまで負の遺産・使用済み核燃料を残す原発を稼働させる必要は全くありません。

【 関電への申し入れの要点 】

以上の視点に立つ私たちは、貴関電も、ドイツ、台湾と同様に一刻も早く原発と決別し、自然エネルギーの活用で世界をリードする電力会社へと脱皮されることを期待し、以下を申し入れます。

【1】 関電は、詭弁や奇策を弄するのではなく、危険極まりなく、行き場もない使用済み核燃料を発生させる原発からの撤退を決断して下さい。就中、年内に中間貯蔵地を見出す見通しがなくなった今、当初の約束通り老朽原発の停止を実行してください。また、近々運転開始後 40 年の老朽原発となる高浜 3、4 号機の稼働を断念し、これらの原発の即時廃炉を決定して下さい。

【2】 原発を動かせば、行き場がなく、子々孫々にまで負の遺産となる使用済み核燃料が増加します。貴関電の有する全ての原発を停止し、既存の使用済み核燃料の処理、処分、保管に関して真剣、広範な議論を開始して下さい。

【3】 一刻も早く原発と決別し、核燃料、化石燃料を使わない発電に転換してください。公益事業体として、環境の保全と人類の明るい未来のために、自然エネルギーによる発電法、大容量蓄電法、省エネ技術などの開発と普及に努めてください。

なお、貴職らが、圧倒的な「老朽原発うごかすな！」「使用済み核燃料の行き場はない！」の民意を蹂躙して原発を稼働させ続け、重大事故が起こった場合、それは貴職らの故意による犯罪であり、許されるものではないことを申し添えます。

2023 年 12 月 22 日

「高浜原発 3 号機の再稼働に抗議する！」
高浜緊急行動参加者一同